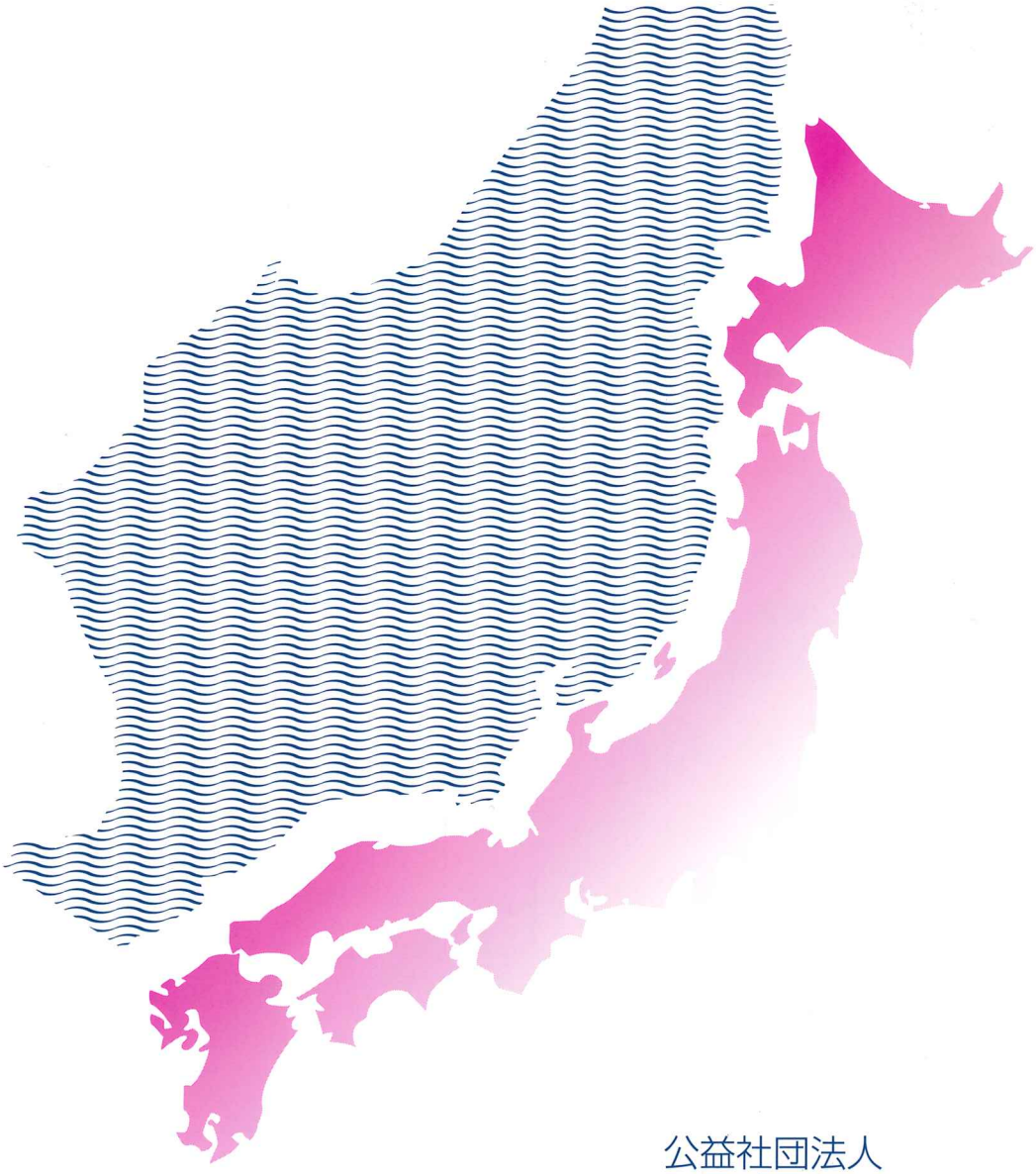
会報

第134号



公益社団法人
日本海海難防止協会

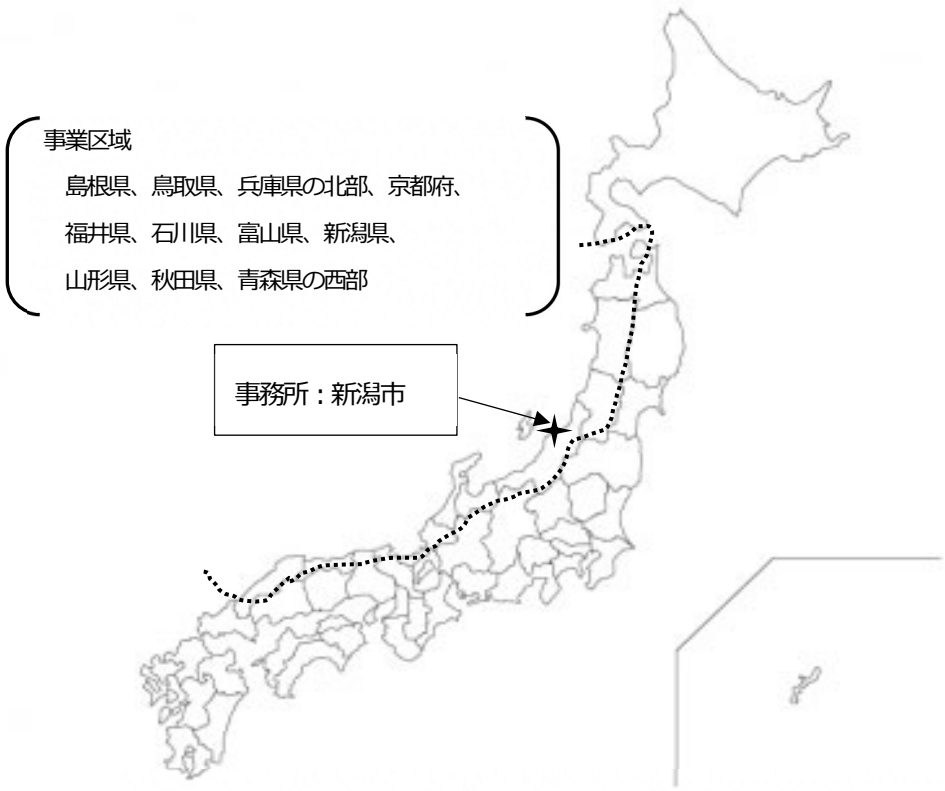
日本海海難防止協会は、本州日本海沿岸(山口県を除く)及び付近水域における、海上交通の安全に寄与するため、次の事業を行っております。

(1) 船舶の航行安全及び海難防止に関する事項の調査研究

(2) 船舶の航行安全に関する教育指導及び情報の提供

(3) 海難防止に関する事項の周知宣伝

(4) その他本協会の目的を達成するために必要な事業



【公益社団法人　日本海海難防止協会が行う事業区域図】

アクセス

○新潟駅(JR 信越線)から

徒歩　約 25 分、ﾀｸｼｰ利用　約 10 分、

ﾊﾞｽ利用　新潟交通　北ふ頭　約 20 分

北ふ頭　停留所下車徒歩約 5 分

○新潟空港から

ﾀｸｼｰ利用　約 20 分、ﾊﾞｽ利用　北ふ頭　約 20 分

○車

国道 113 号線竜が島郵便局前交差点を左折直進、信号を一つ通過後右折し約 50m

目　　次

会長年頭の挨拶 1

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究.....3

１　日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究

（富山湾、七尾湾、飯田湾及び金沢港周辺海域） 3

1-1　第１回委員会 3

２　舞鶴港第２ふ頭３、４号岸壁大型客船入出港に係る航行安全調査 4

2-1　第１回委員会 4

2-2　第２回委員会 5

2-3　ビジュアル操船実験 5

2-4　作業部会 5

2-5　第３回委員会 5

３　敦賀港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査.....6

3-1　第２回委員会 6

４　新潟港東区ＬＮＧ船着桟中止基準見直しに係る調査.....7

4-1　調査会 7

５　境港(江島地区)大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討 8

5-1　第１回委員会 8

5-2　ビジュアル操船実験 9

６　境港(外港竹内南地区外)大型旅客船入出港に伴う船舶航行安全対策検討 10

6-1　第１回委員会 10

6-2　ビジュアル操船実験 11

７　新潟港(西港区)大型客船入出港に係る航行安全調査.....12

7-1　第１回調査会 12

7-2　ビジュアル操船実験 12

Ⅱ　会　務

Ⅱ－１　業務予定.....13

Ⅲ　海の安全情報

Ⅲ－１　冬期海難防止活動実施中！（走錨海難を防止するためにできること）....14

Ⅲ－２　敦賀港の海図が新しくなりました.....16

Ⅲ－３　海上における事故防止の季刊情報を提供.....17

Ⅲ－４　運航前、海上模様の把握に使ってみませんか？.....18

Ⅳ　寄 稿 欄

舞鶴の神様たち（春日神社）.....19

Ⅴ　連 絡 事 項

会員名簿の変更.....23

会長年頭の挨拶

代表理事会長 南波 秀憲

新年、明けましておめでとうございます。

2022 年を迎え、皆様にとって明るく素晴らしい一年となることをお祈り申し上げます。

また、常日頃より当協会の運営に格別のご理解とご支援を賜り心から御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと１年の延期と無観客開催という異例の状況で開かれた東京オリンピック・パラリンピック、日本人選手が史上最多の 27 個、パラリンピックで 13 個と合計 40 個の金メダルを獲得、また、シーズンを通してリアル二刀流で連日「翔タイム」として全国民が興奮、大リーグＭＶＰに輝いた大谷翔平選手、さらに松山英樹選手の日本人初のマスターズ制覇、藤井聡太棋士の最年少四冠達成など、国内外でこれまで成し得なかった多くの金字塔が打ち立てられ、コロナ禍にひときわ輝いた明るいニュースも多くあり、2021 年「今年の漢字」には「金」が選ばれました。

また、政権が代り、昨年 12 月召集の第 207 回臨時国会での岸田首相所信表明演説冒頭で礼記の「遠きに行くには、必ず邇(ちか)きよりす。」との言葉やケネディ大統領が 1962 年の演説で用いた「屋根を修理するなら、日が照っているうちに限る。」を引用し、平時に有事に備えを進める重要性と最悪の事態を想定した危機管理に理解を求め、新型コロナウイルス感染対策や経済立て直しに向けた財政出動の必要性を訴えていました。

当協会では、平成 30 年９月台風 21 号で走錨した貨物船が関西国際空港連絡橋に衝突した海難を機に、日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究を進め、令和２年度の新潟港、佐渡島及び直江津港周辺海域から海域を変え行ってきました。

また、政府が進める成長戦略実行計画やエネルギー基本計画で示される洋上風力発電は、2030 年までに 1,000 万 kW、2040 年までに浮体式も含め 3,000 万 kW～4,500 万 kW の導入を目指し同発電の設置海域や同発電に係る基地港湾などの整備が着々と進められる中、当協会では、青森県から新潟県の沿岸域での洋上風

力発電事業計画に関する航行安全の調査研究を行い、同発電導入に係る対象海域での航行安全対策を提案しているところです。

更には、コロナ禍で一時停滞していたクルーズ船寄港では、クルーズ船と受入港を再び安心してクルーズを楽しめる環境の整備として国土交通省が安全・安心かつ上質で多様な寄港地観光の促進などに向けた取組の事業が予算化され、クルーズ旅客の移動又は手荷物等の搬出入、クルーズ旅客が利用する旅客上屋の受入環境やライブカメラ、検温設備の設置などコロナ禍前には考え付かなかった対応が施された上でのクルーズ船寄港となり、当協会では、それら対策を行う港湾での大型客船入出港に係る航行安全調査を行ったところです。

さて 2022 年は壬寅（みずのえとら）。

壬は厳冬、清謐、沈滞という意味、寅は 12 支の３番目、“とら”で動くの意味。春が来て草木が生ずる状態を表しています。これらを合わせ考えると 2022 年は、厳しい冬から春が来て生命力に溢れ、華々しく生まれ変わるというイメージになります。

新型コロナの収束はもう少しですが、政府の危機管理対策に期待しつつ、寅年に因み成長する年を念頭に会員の皆様と共により一層、海上の交通安全に寄与して参る所存であります。

最後に会員各位の更なるご活躍と海上交通の安全を祈念し新年の挨拶といたします。

Ⅰ　事 業 報 告

Ⅰ－１　調査研究

１　日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究（富山湾、七尾湾、飯田湾及び金沢港周辺海域）

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
　松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
　神田　修二　伏木水先区水先人会　会長
　木下　　博　七尾水先区水先人会　会長
　川西　邦夫　伏木海陸運送株式会社　代表取締役社長
　河井　重夫　富山港湾運送株式会社　常務取締役
　堀岡　修次　株式会社金沢港運　代表取締役社長
　大谷内　守　七尾海陸運送株式会社　船舶代理店課長
　佐丸　樹人　富山県漁業協同組合連合会　参事
　青山　邦洋　石川県漁業協同組合　参事
「関係官公庁」
　第九管区海上保安本部　交通部
　第九管区海上保安本部　海洋情報部
　伏木海上保安部
　金沢海上保安部
　七尾海上保安部
　能登海上保安署
　富山地方気象台
　金沢地方気象台

1-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和３年７月 21 日(水)
(2)　場　　所：金沢市　ＡＮＡクラウンプラザホテル金沢
(3)　議　　題：
　①　調査・研究の計画について
　②　対象港湾について
　③　対象海域の気象・海象について
　④　海難の状況について
　⑤　対象海域の船舶状況（ＡＩＳデータ）について

２　舞鶴港第2ふ頭3、4号岸壁大型客船入出港に係る航行安全調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
　遠藤　　真　富山高等専門学校　名誉教授
　松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
　髙橋　喜彦　舞鶴水先区水先人会　会長
　田端　昭則　飯野港運株式会社　常務取締役
　北村　貴弘　日本通運株式会社　舞鶴海運事業所　所長
　中西　隆裕　舞鶴倉庫株式会社　取締役舞鶴事業部長
　荒木　紀夫　ジャパンマリンユナイテッド株式会社　舞鶴事業所長
　吉岡　　努　新日本海フェリー株式会社舞鶴支店　支店長
　出田　善裕　関西電力株式会社舞鶴発電所　計画課長
　鈴木　哲也　舞鶴曳船株式会社　代表取締役社長
　西川順之輔　京都府漁業協同組合　代表理事組合長
　山田　悦子　京都府小型船安全協会　事務局長
（オブザーバー）
　河地　俊行　舞鶴水先区水先人会　副会長
「関係官公庁」
　第八管区海上保安本部　交通部
　舞鶴海上保安部
　近畿地方整備局　舞鶴港湾事務所
　京都地方気象台
　海上自衛隊　舞鶴地方総監部
　舞鶴市　産業振興部

2-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和３年７月７日(水)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
　①　大型クルーズ客船の入港計画について
　②　調査・検討の計画について
　③　舞鶴港の現況について
　④　航行環境について

2-2　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和３年９月 30 日(木)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
　①　第１回委員会の質疑への対応について
　②　操船に係る基礎検討について
　③　操船の安全性(ビジュアル操船実験方案)について
　④　係留の安全性について

2-3　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：令和３年 10 月７日(木)～８日(金)
(2)　場　　所：川崎市　株式会社日本海洋科学シミュレーションセンター

2-4　作業部会

(1)　開 催 日：令和３年 11 月 16 日(火)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
　①　第２回委員会の質疑への対応について
　②　入出港操船の安全性(操船実験結果)について
　③　航行安全対策案について

2-5　第３回委員会

(1)　開 催 日：令和３年 12 月８日(水)
(2)　場　　所：舞鶴市　舞鶴グランドホテル
(3)　議　　題：
　①　第２回委員会の質疑への対応について
　②　入出港操船の安全性(操船実験結果)について
　③　航行安全対策について
　④　報告書構成案について

３　敦賀港港湾計画改訂に伴う船舶航行安全対策調査

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
遠藤　　真　富山高等専門学校　名誉教授
松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
三反崎紀夫　福井県水先人会　敦賀港水先人
田中　宏文　敦賀海陸運輸株式会社　取締役港湾事業本部長
鳥羽　　学　日動海運株式会社　代表取締役社長
江波　昭一　敦賀セメント運輸株式会社　代表取締役社長
（三上 立人　敦賀セメント運輸株式会社　代表取締役社長 人事異動により委員交代）
水馬　一彦　敦賀ターミナル株式会社　業務部長代理
遠藤　英昭　新日本海フェリー株式会社　敦賀支店　支店長
内田　宏明　北陸電力株式会社　敦賀火力発電所　所長
石井　孝司　近海郵船株式会社　敦賀営業所　所長
森　　修　敦賀市漁業協同組合　代表理事組合長
坂本　憲男　福井県小型船交通安全対策協議会　会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
敦賀海上保安部
中部運輸局　福井運輸支局(敦賀庁舎)
北陸地方整備局　敦賀港湾事務所
福井地方気象台

3-1　第２回委員会

(1)　開 催 日：令和３年９月 27 日(月)
(2)　場　　所：福井市　ザ・グランユアーズフクイ
(3)　議　　題：
　①　第１回委員会の質疑への対応について
　②　港湾計画改訂の計画案(第１回委員会提出の修正)について
　③　航行の安全性について
　④　航行安全対策について
　⑤　報告書構成案について

４　新潟港東区ＬＮＧ船着桟中止基準見直しに係る調査

調査会の構成

（順不同・敬称略）

「海事有識者」

安藤　眞博　公益社団法人日本海海難防止協会　専務理事
栖原　陽一　新潟水先区水先人会　副会長
池藤　　公　新潟港船舶代理店　理事
東北ポートサービス株式会社　新潟営業所　所長
伊藤　則彦　日本海曳船株式会社　専務取締役
菅原　裕之　新潟港東区入出港船航行安全協議会　事務局長
株式会社リンコーコーポレーション
運輸本部東港支社　船舶業務部長
福山　博己　一般財団法人日本気象協会新潟支店　支店長

「関係官公庁」

新潟海上保安部
北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所
新潟地方気象台
新潟県新潟地域振興局　新潟港湾事務所東港分所

4-1　調査会

(1)　開 催 日：令和３年 10 月 21 日(木)
(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
(3)　議　　事：
「新潟港東区ＬＮＧ船着桟中止基準見直しに係る安全性」

５　境港（江島地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」

日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
奥田　邦晴　国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校　名誉教授
松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
森脇啓治郎　境水先区水先人会　会長
眞木　　崇　境港海陸運送株式会社　取締役海運事業部長兼船舶代理店課長
谷口　真吾　株式会社上組境港支店　支店長
景山　一夫　鳥取県漁業協同組合　代表理事組合長
松本　美夫　漁業協同組合ＪＦしまね美保関支所　副運営委員長

（オブザーバー）

野村　治彦　境水先区水先人会　副会長

「関係官公庁」

第八管区海上保安本部　交通部
境海上保安部
中国地方整備局　港湾空港部
中国地方整備局　境港湾・空港整備事務所
中国運輸局　鳥取運輸支局（境庁舎）
鳥取地方気象台
鳥取県県土整備部　空港港湾課
島根県土木部　港湾空港課
鳥取県境港水産事務所

5-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和３年 10 月 26 日（火）
(2)　場　　所：米子市　ＡＮＡクラウンプラザホテル米子
(3)　議　　題：
　①　対象船舶の大型化計画について
　②　調査・検討の計画について
　③　境港の現況について
　④　航行環境について
　⑤　操船に係る基礎検討について
　⑥　入出港操船の安全性（操船実験方案）について

5-2　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：令和３年 11 月 24 日(水)～25 日(木)

(2)　場　　所：東京都　ＭＯＬマリン＆エンジニアリング株式会社
シミュレータ室

６　境港（外港竹内南地区外）大型旅客船入出港に伴う船舶航行安全対策検討

委員会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　日當　博喜　海上保安大学校　名誉教授
　奥田　邦晴　国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校　名誉教授
　松田　洋和　一般社団法人日本船長協会　副会長
　森脇啓治郎　境水先区水先人会　会長
　眞木　　崇　境港海陸運送株式会社　取締役海運事業部長兼船舶代理店課長
　谷口　真吾　株式会社上組境港支店　支店長
　景山　一夫　鳥取県漁業協同組合　代表理事組合長
　松本　美夫　漁業協同組合ＪＦしまね美保関支所　副運営委員長
（オブザーバー）
　野村　治彦　境水先区水先人会　副会長
「関係官公庁」
　第八管区海上保安本部　交通部
　境海上保安部
　中国地方整備局　港湾空港部
　中国地方整備局　境港湾・空港整備事務所
　中国運輸局　鳥取運輸支局（境庁舎）
　鳥取地方気象台
　鳥取県県土整備部　空港港湾課
　島根県土木部　港湾空港課
　鳥取県境港水産事務所

6-1　第１回委員会

(1)　開 催 日：令和３年 10 月 26 日（火）
(2)　場　　所：米子市　ＡＮＡクラウンプラザホテル米子
(3)　議　　題：
　①　大型客船の入港計画について
　②　調査・検討の計画について
　③　境港の現況について
　④　航行環境について
　⑤　操船に係る基礎検討について
　⑥　入出港操船の安全性（操船実験方案）について

6-2　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：令和３年 11 月１日(月)～２日(火)

(2)　場　　所：川崎市　株式会社日本海洋科学シミュレーションセンター

7　新潟港（西港区）大型客船入出港に係る航行安全調査

調査会の構成

（順不同・敬称略）

「委　員」
　矢吹　英雄　東京海洋大学　名誉教授
　髙橋　　勝　海上保安大学校　名誉教授
　葛西　弘樹　一般社団法人日本船長協会　会長
　岡本　幹男　新潟水先区水先人会　会長
　佐藤　　直　新潟港船舶代理店　理事
　　日本通運株式会社　新潟海運支店
　伊藤　則彦　日本海曳船株式会社　専務取締役
　真保　髙弘　佐渡汽船株式会社　常務取締役海務部長
　笠原　　力　新日本海フェリー株式会社　執行役員新潟支店長
（オブザーバー）
　栖原　陽一　新潟水先区水先人会　副会長
「関係官公庁」
　第九管区海上保安本部　交通部
　新潟海上保安部
　北陸信越運輸局　海事部
　北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所
　新潟地方気象台

7-1　第１回調査会

(1)　開 催 日：令和３年 11 月８日（月）
(2)　場　　所：新潟市　ＡＮＡクラウンプラザホテル新潟
(3)　議　　題：
　①　大型クルーズ客船の入港計画（西港区）について
　②　調査・検討の計画について
　③　新潟港（西港区）の現況について
　④　航行環境について
　⑤　操船に係る基礎検討について
　⑥　操船の安全性について（ビジュアル操船実験方案）

7-2　ビジュアル操船実験

(1)　開 催 日：令和３年 12 月 16 日（木）～17 日（金）
(2)　場　　所：東京都　ＭＯＬマリン＆エンジニアリング株式会社
　　シミュレータ室

Ⅱ　会　務

Ⅱ－１　業務予定

内　　容		予　定　月　日
⑴	境港（外港竹内南地区外）大型旅客船入出港に伴う船舶航行安全対策検討　　追加ビジュアル操船実験	令和４年　１月　５日
⑵	日本海主要港湾における錨泊船舶の安全対策に関する調査研究（富山湾、七尾湾、飯田湾及び金沢港周辺海域）　第２回委員会	令和４年　１月 13 日
⑶	境港（江島地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討　作業部会	令和４年　１月 20 日
⑷	新潟港（西港区）大型客船入出港に係る航行安全調査　作業部会	令和４年　１月 26 日
⑸	境港（外港竹内南地区外）大型旅客船入出港に伴う船舶航行安全対策検討　作業部会	令和４年　２月　８日
⑹	境港（江島地区）大型貨物船入出港に伴う船舶航行安全対策検討　第２回委員会	令和４年　２月　８日
⑺	新潟港（西港区）大型客船入出港に係る航行安全調査　第２回調査会	令和４年　２月　15 日
⑻	境港（外港竹内南地区外）大型旅客船入出港に伴う船舶航行安全対策検討　第２回委員会	令和４年　２月　28 日
⑼	令和３年度　第３回理事会	令和４年　３月　３日
⑽	会報第 135 号発行	令和４年　４月　下旬

Ⅲ　海の安全情報

Ⅲ－１　冬期海難防止活動実施中！（走錨海難を防止するためにできること）

～東北の冬の海　危険性再認識　特に日本海！～

第二管区海上保安本部交通部　航行安全課

東北地方、特に日本海沿岸海域においては、冬期における強い季節風の連吹や、発達した低気圧の影響に伴い海上荒天となる日が多くなり、気象・海象不注意、荒天準備不足等に起因する船舶海難の発生リスクが高くなります。

このため、第二管区海上保安本部では、毎年１１月１日から５か月を冬期海難防止活動期間として、主に走錨海難を防止するための活動を行っています。

過去には、港外に錨泊していた大型船舶が暴風により走錨し消波ブロックへ乗揚げ、船体損傷・油流出した海難、出港した大型船舶が風浪により荒天難航に陥り浅瀬へ乗揚げた海難等が５件発生し、いずれも船体損傷、補償など多大な損失となりました。

このような過去の教訓を活かし、「走錨海難を防止するためにできること」として、以下のことにご注意下さい。

▸ 走錨海難を防止するための基本的事項

・気象海象情報の入手と常時把握
・国際ＶＨＦ(16ch)の常時聴取
・錨かきの良い錨地の選定
・陸岸、障害物、他船等との十分な距離
・見張り(自船及び他船の走錨監視等)
・ＡＩＳ常時作動(ＡＩＳ搭載船に限る)

▸ 荒天時には？

・守錨当直体制の強化
・錨鎖の伸長又は錨泊方法の変更
・開口部閉鎖と移動物の固縛
・バラスト及びトリム調整
・エンジンスタンバイと乗組員即応体制
・状況により錨泊中止→ちちゅう航法など

▸ 走錨を確認する方法

・風を両舷交互に受けず片舷からのみ受けるような場合、走錨と判断する。
・異常なショック感や錨鎖の張り具合から知る。
・レーダー映像の固定物標の距離と方位の変化から知る。
・正横付近にある物標のトランジットの変化（ズレ）から知る。
・他の錨泊船との関係から知る。

この他、次の取り組みに重点をおいています。

●日本海沿岸向けに航行する船舶への情報提供の強化

荒天予想時、日本海向けに航行するＡＩＳ搭載船舶に対して、ＡＩＳメッセージ及び国際ＶＨＦにより、気象情報、錨泊時の注意事項及び航行安全についての情報提供を実施しています。

●東北地方の冬の海について危険性の再認識

東北地方の冬の海は、厳しい自然環境下にあるということを改めて認識していただき、荒天に備え気象・海象・避難勧告等の最新情報を入手し、時間的余裕をもった行動を推奨しています。

これら走錨海難を防止するための基本的事項等について改めて認識の上、冬期海難ゼロを目指しましょう。

第二管区海上保安本部　海難防止活動 HP

海難防止活動
リーフレットの入手
はこちら HP

Ⅲ－２　敦賀港の海図が新しくなりました

第八管区海上保安本部　海洋情報部

敦賀港及びその周辺を含む海図Ｗ１１７「敦賀湾付近」について、第八管区海上保安本部が実施した最新の測量成果や港湾情報などを採り入れて、令和３年12月に発行（改版）しました。

敦賀港は、若狭湾東部の敦賀湾奥に位置する港で、北海道苫小牧港との定期フェリー航路や北海道苫小牧港、福岡県博多港とのＲＯＲＯ船航路による物流の拠点です。また、対岸諸国との貿易の拠点港としての歴史も深く、現在は韓国との間に定期コンテナ船やＲＯＲＯ船の航路を有しているなど、環日本海時代に対応した流通港湾としての重要な役割を担っています。

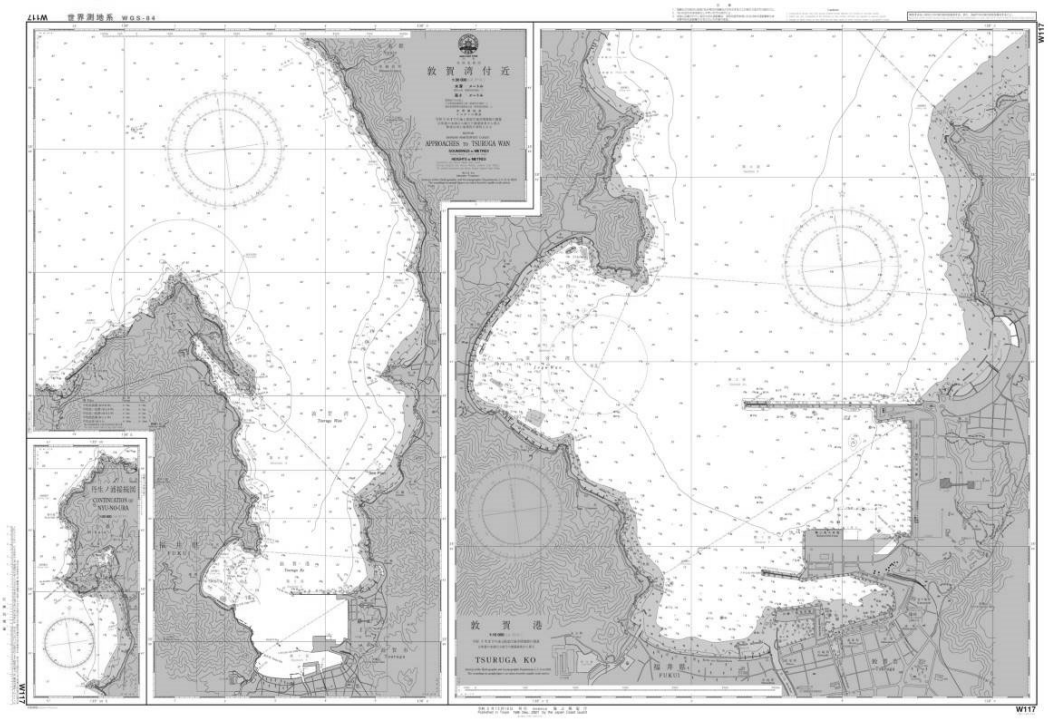
今回の改版により、主に以下の情報が更新されています。

・水深（第１区蓬莱岸壁～金ケ崎岸壁及び周辺の泊地など）

・海岸線（港湾工事の進捗、自然海岸の人工護岸化を反映）

・目標物（航海の目印となる無線塔の追加、煙突の撤去など）

なお、今回の発行により、これまで使われていた海図は廃版となり航海に使用することができなくなりましたのでご注意ください。（電子海図は「電子水路通報」を適用することにより新しい海図の情報に更新されます。）



海図　Ｗ１１７「敦賀湾付近」

Ⅲ－３　海上における事故防止の季刊情報を提供

～【八管安全ダイジェスト】の発行～

第八管区海上保安本部交通部　安全対策課

第八管区海上保安本部では、昨年 10 月から海上における事故防止についてタイムリーな情報として**【八管安全ダイジェスト】**を発行しています。

このダイジェストは、特に季節ごとで起きている事故や気象・海象等の自然現象への対策について、分かりやすく掲載しており、

10 月は「釣り中の海中転落に注意！」、

11 月に「海中転落多発」を紹介しています。

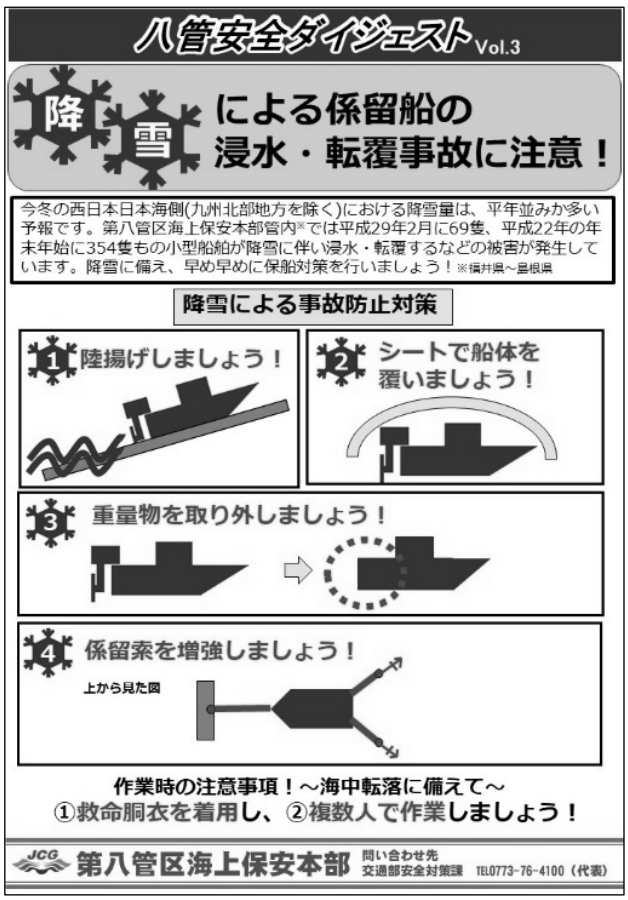
八管安全ダイジェスト

〈Vol．３ 降雪による係留船の浸水・転覆事故に注意！〉（12 月８日掲載）

今冬、西日本の日本海側における降雪量は、平年並みか多い予報となっており、昨年１月の北陸地方を襲った短期間の集中的な降雪など大規模な降雪での浸水・転覆などの事故が懸念されるところです。

過去には、福井県から島根県に至る日本海沿岸では、降雪により多くの漁船、ボートが浸水･転覆など多大な被害を受けました。

このため 12 月は「降雪による係留船の浸水・転覆事故に注意！」と題して、早期の陸揚げ、船体をシートで被うなどの事故防止対策を呼び掛けています。



Ⅲ－４　運航前、海上模様の把握に使ってみませんか？

～「モニタリング海しる」～

第九管区海上保安本部海洋情報部　監理課

平成３１年４月に運用がスタートした「海しる」は、風や流れなどのさまざまな海洋情報を提供するシステムです。

これらの情報は、重ねて表示させることも、並べて表示させることもできます。

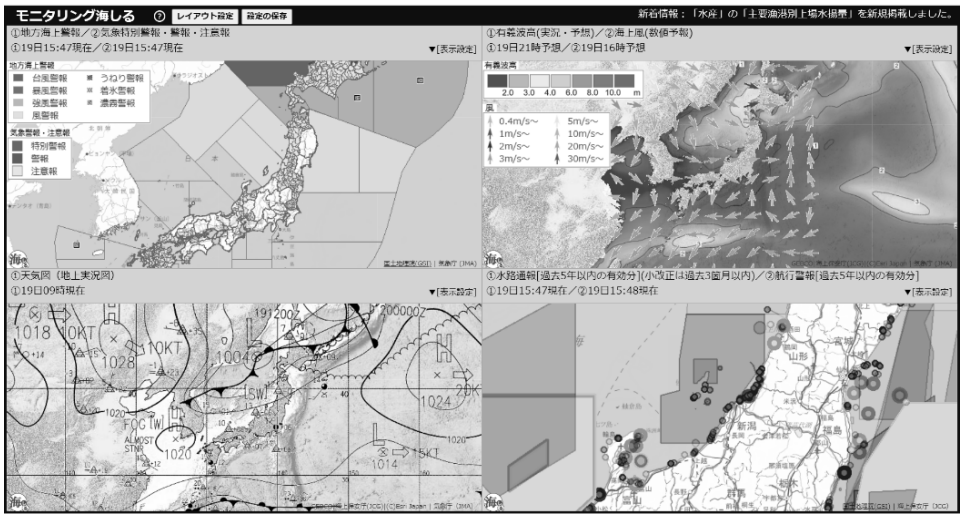
複数の海洋情報を重ねて表示することで、複数の画面で見比べる必要がなくなり、見やすくなりますが、海洋情報を重ねすぎると見辛くなります。そのような場合は、並べて表示させる「モニタリング海しる」（モバイル端末は未対応）があります。

「モニタリング海しる」はマルチ画面で画面数は６つまで表示でき、表示情報は一定時間ごとに自動更新され、常に最新情報が表示されます。また、１つの小画面に最大３つの海洋情報を重ねて表示することができるため、見辛くならない程度に複数の情報を重ねた小画面を並べて表示することもできます。

使用例として、海上警報、天気図、波・風などの最新情報を表示させて、運航前に海上模様の確認ができ、大型モニターに映しておくことで多くの人と共有することもできます。

利用方法は、以下のＵＲＬ又はＱＲコードで「海しる」ＴＯＰページを表示させ、画面下の「モニタリング海しる」ボタンをクリックすることで表示できます。

https://www.msil.go.jp/



「モニタリング海しる」の表示例

（左上から時計回りに地方海上警報・気象警報、
波高・風、水路通報・航行警報、天気図）

Ⅳ　寄 稿 欄

舞鶴の神様たち（春日神社）

元舞鶴事務所長　山本勝眞

舞鶴市の西端、宮津市とのほぼ境界に近いところに「滝ケ宇呂」という集落があります。あるテレビ局の番組「ぽつんと一軒家」がロケ取材しそうな集落で、どの家も一軒家といっていいような５、６軒の民家が点在するところです。

そんな集落にある、「春日神社」を今回は尋ねました。

場所は、舞鶴市から国道 175 号線を福知山市に向かい、「地頭」の三叉路交差点信号を右折し、５キロメートルほど山間の道を北に行ったところですが、途中からはまったくの山道で交通量もほとんどないという道を上っていきますと、その道の突き当りの場所に鎮座されている春日神社に到着します。神社すぐ近くには、ホルスタインの牛舎と一軒の民家があるのみで、そのほかには民家はありません。失礼ながら、「こんなところに集落があるなんて？」といったようなところです。

本地図は「地理院地図(GSI Maps)」から編集

春日神社のすぐそばの、その民家を訪ねてみたところ、田村政巳さんとおっしゃる方のお家で、「自分は平安時代の坂上田村麻呂（さかのうえのたむらまろ）の末裔で、数えて 43 代目に当たる子孫。戦国の終わりごろ（16 世紀末か？）、舞鶴の田辺藩を頼って九州から落ちてきて、田辺藩からこのあたりの土地をもらって住み始めた。それから 13 代目を数え、自分も家名としては田村太郎左衛門政巳と名乗っている」とのことでした。

ちなみに、現在は、ホルスタイン種の乳牛を十数頭飼育し、糞尿はおがくずと混ぜて発酵した肥料を製造しておられるとのことで、自宅近くに牛舎と「平成 11 年環境保全型畜

産確立対策事業」と表記されたサイロがあり、私が訪問した 11 月 6 日は、稼働中の装置が音を立て、蒸気のような煙が輩出された状態でした。

さて、春日神社ですが、道の突き当りの場所の神社の入り口に、昭和８年建立の石灯籠が建っていて、石灯籠から 10 メートルほどのところの６段の石段を上ると石造りの明神型鳥居があります。

ご本殿

鳥居には「明治四二年七月吉祥日建立」の刻印が判別できました。さらに 20 メートルほど参道を上り 12 段の石段を上がると一対の石灯籠があって、その奥のご本殿に達します。

ご本殿は覆い屋根に覆われてはいるものの、前側と両側面が完全に、覆われる構造ではないため、風雨にさらされ、失礼ながら痛みがかなりひどいという状態になっています。

とは言え、この春日神社は、京都府神社庁の舞鶴市神社一覧にも載っておりご本殿は、あまり大きくはありませんが、木造流れ造りの立派なお社です。

ご本殿

もう少し手を入れたほうがいいのでは、と残念な思いはありました。

ご本殿両脇には唐獅子一対、そして左右に境内社がそれぞれひとつずつありました。

ご本殿、境内社とも手掛かりになる木札などは見当たらず、残念ながらどなたがお祀りしてあるのかはわかりません。

境内唐獅子

春日神社といえば奈良の「春日大社」を総本社とする全国に1000社以上存在するといわれる神社が頭に浮かびます。

春日神社の多くの御祭神は、日向の軍神「武甕槌命（たけみかづちのみこと）」、「経津主命（ふつぬしのみこと）」、「天児屋根命（あめのこやねのみこと）」のいずれか、あるいはこのお三方が祀られておられるのではと頭に浮かぶのですが、田村さんに尋ねたところ、なんとこの神社の御祭神は田村家の祖神様（おやがみさま）ということでした。ということは、坂上田村麻呂がお祀りされている（？）ということなのでしょうか？春日大社をはじめ全国の春日神社とのゆかりなどはまったくない。とのことでした。いずれにしても、戦国時代の終わりごろに、田村家のご先祖がこの地に入植されてから創建されたということですが、詳細はわかりませんでした。

境内大銀杏の木

境内には巨大な銀杏の木が２本あって、そのうち１本は胸高さの胴回り２メートル、もう一本は１メートル80センチほどの太さです。木の下付近には敷き詰めたほどの銀杏の実がいっぱいでした。

神社の裏側は、杉やヒノキの巨木が谷あいに沿って裏山の上に連なっており、いかにも神域という雰囲気が漂うという感じです。

ご本殿裏の檜・杉林

今回取材した春日神社は、春日大社をはじめとする全国の春日神社とのご縁はないということでしたが、せっかくですので春日神社にまつわる話を紹介しておきたいと思います。

前述した通り、春日神社の総本宮は、奈良の春日大社で、茨城県の鹿島神宮の御祭神「武甕槌命」、千葉県の香取神宮の御祭神「経津主命」、大阪の枚岡大社の「天児屋根命」のご三方が祭神です。

（ほかに一柱「比売御神（ひめみかみ）」が祀られていますが、天児屋根命の妻神あるいは宗像三神という説もあります。）

古事記の葦原中國（あしはらなかつくに）（神話にいう地上の世界）の平定の項で、武甕槌命は出雲の稲佐の浜に降り立ち、十束（とつか）の剣（つるぎ）（長い剣）を波の上に逆さまに突き立て、その切っ先の上に胡坐をかいて、大国主命（おおくにぬしのみこと）に対して国譲りの談判を行った。大国主命とお子神事代主命（ことしろぬしみこと）は、すんなりと承諾したが、もう一人のお子神武御名方命（たけみなかたのみこと）は反対して抵抗されたことが記されています。

この国譲りの話は、武甕槌命と経津主命が武御名方命を打ち破り、最終的には、長野県の諏訪に追込み降参させたことで決着をみたことになっています。

（武御名方命は諏訪大社の御祭神です。）

天児屋根命は天の岩戸神話で功あった神様で、天孫降臨や天岩戸などで功が記されている神様です。

春日大社は、藤原氏の守護神で日向（高天原）系の神様ですから、出雲系の神様にとって、優位な話はありません。

Ⅴ　連 絡 事 項

会員名簿の変更

現在発行している会員名簿の変更です。（令和４年１月 10 日届出分まで）

○　指定代表者等の変更等

頁	会　社　・　団　体　名	指定代表者職氏名	担当者職氏名
3	日本製紙㈱	秋田工場長 掛　橋　裕　哉	秋田工場業務課長 橋　元　邦　夫
〃	㈱みなと	代表取締役社長 川　合　　章	専務取締役 笹　村　　司
4	㈱加賀田組	取締役専務執行役員 営業本部長 岩　川　祥　二	建設本部安全部長 石　川　芳　和
5	北日本石油㈱	東京販売支店長 山　田　利　雄	東京販売支店 新潟営業所長 藤　盛　丈　彦
7	日本海エル・エヌ・ジー㈱	取締役社長 武　田　眞　二	オペレーション統括部 伊　藤　文　浩
9	(公社)日本海難防止協会	会　長 村　上　英　三	総務部長 亀　山　誠　二
11	七尾港整備・振興促進協議会	会　長 茶　谷　義　隆	産業振興課 主任 坂　本　　唯
13	日本原子力発電㈱	敦賀事業本部 執行役員敦賀発電所長 坂佐井　　豊	敦賀事業本部敦賀発電所 総務室経理マネージャー 塙　　健　司
14	丹後海陸交通㈱	代表取締役社長 廣　瀬　一　雄	総務部次長 兼 総務担当課長 藤　原　伸　二
〃	関西電力㈱	エネルギー需給本部 燃料部長 工　藤　信　一	エネルギー需給本部 燃料需給グループ リーダー 細　川　　峻

○　代表者等の変更

頁	会　社・団　体　名	代表者職氏名	担当者職氏名
17	ＥＮＥＯＳグローブガスターミナル㈱ 青森ガスターミナル	所　長 松　浦　広　幸	操業グループリーダー 阿　部　誠　治
〃	東北電力㈱能代火力発電所	所　長 清　野　幸　典	調査役 合　原　康　浩
18	中国電力㈱島根原子力発電所	所　長 岩　崎　　晃	総務課長 佐　藤　憲　治

○　会社・団体名等の変更

頁	（旧）　会　社・団　体　名	（新）　会　社・団　体　名
14	境港海陸運送㈱	ＮＸ境港海陸㈱

○　住所等の変更

頁	会　社・団　体　名	住　　所
11	七尾港整備・振興促進協議会	〒926-8611 七尾市袖ヶ江町イ部 25 番地 七尾市役所産業振興課内

○　電話及びＦＡＸ番号の変更

頁	会　社・団　体　名	電　　話	ＦＡＸ
11	七尾港整備・振興促進協議会	0767-53-8565	0767-52-2812

○　役員名簿の変更

頁	氏　　名	住　所・会　社・団　体・職　名
19	岩　川　祥　二	新潟市中央区万代４丁目５番 15 号 ㈱加賀田組取締役専務執行役員営業本部長

「レジャーにもルールがあります海の上」

「海を知りルール守って安全運航」

会　　報　　第１３４号

令和４年１月発行

発 行 所　新潟市中央区竜が島１丁目９番２号
公益社団法人　日本海海難防止協会
〒950－0072
電　話（025）247－8531
ＦＡＸ（025）247－0316
E-mail nikkaikb@poem.ocn.ne.jp
URL　http://nikkaikb.com/
印 刷 所　株式会社 ウィザップ